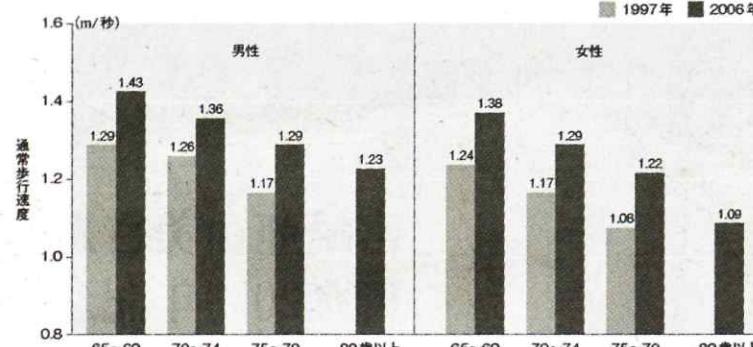


図 年齢群別にみた通常歩行速度平均値の1997年と2006年の比較 (2006年には80歳以上でも計測している)



国立長寿医療研究センターによる老化に関する長期縦断疫学研究から引用

前回の「磯野波平さんは何歳?」で、性・年齢階層別死亡率から日本人の生物学的年齢が10歳以上も若返っていると紹介しました。

運動能力などの生理学的指標も若返っているのでしょうか。この連載の第5回

「フレイルではありますか?」で、フレイ

歩行速度は生物学的年齢の代表的な指標と考えられていますが、歩く速度からみても、ずいぶんと若返っているのです。

高齢者のさまざまな機能について調査・研究をしている国立長寿医療研究センターの「老化に関する長期縦断疫学研究:NILS-ILSA」の結果を見

NILS-ILSAの一環として秋田の住民を対象に行われた1992年と2002年の調査(鈴木隆雄ほか「日本高齢者における身体機能の縦断的・横断的変化に関する研究――ILSAでは1997年から約2年ごとに医学・心理・運動・身体組成・栄養などの老化・老年病に関わる幅広い項目について、追跡調査を実施しています。身体機能(運動機能)では、握力(きりぐら)、開眼片脚起立

時間(秒)、通常歩行速度(秒/秒)、最大歩行速度(秒/秒)の4項目を計測してお

ります。※次回は「65歳以上を高齢者と誰が決めた」です。

## 人生100年時代の健康管理

桐生大学 桐生大学短期大学部副学長 山科 章



【プロフィル】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年5月から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、前日本循環器病予防学会理事長。

通常歩行速度は、測定区間5mの前後に1mの助走路を設け、普段のスピードで歩行しと判定する五つの基準の一つに通常歩行速度1・0m/秒以下があると紹介しました。(第1次)と2006年

時間(秒)、通常歩行速度(秒/秒)、最大歩行速度(秒/秒)の4項目を計測してお

り、興味深い結果を報告しています。

## 保健・福祉

インフルくんと  
みなさん、こんばんは。インフルくん。がりショカのようなんじるひもあるね。うじきハナマツリ。マのタンジョウウビをそそいでレイハイちゃんからまもつていいシンキョウだよ。ヒジョウジタインやサカなどダイヨン。さるコロナちゃんの

疾病名	3週前報告数	2週前報告数	1週前報告数	今週の報告数
インフルエンザ	0	1	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	2
咽頭結膜熱	4	8	4	8
A群溶連菌咽頭炎	26	30	31	24

## 群馬県

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。